

チンタカ・D・ヘマチャンドラ（スリランカ）



はじめまして。私はスリランカから来たディネッシュ・チンタカ・ヘマチャンドラと申します。私はスリランカ防災人権省国立建築研究所（NBRO）で地質学者として働いています。外国人研究員として ADRC の客員研究員として参加できたことを嬉しく思います。

スリランカはインド半島の南側に位置する島国です。椰子の木が並ぶ海岸や、歴史的建造物、様々な風景が観光客を魅了しています。気候区分としては熱帯収束帯に分類されています。またスリランカは西南及び北東の方向で発生する2種類のモンスーンによって多くの雨がもたらされています。私たちの国は、このような降雨の影響に起因する災害に脆弱な地域となっています。特に、岩層が露出した高地などにおいて地滑りなどが頻繁に起きています。過去30年をみても、人工が密集した高地においては、これらの災害によって多くの人命や財産が奪われるケースが増加傾向にあると報告されています。

そこでスリランカ防災人権省国立建築研究所は、地形及び地質学的な災害の影響を受けやすい地域の調査をするため1984年に設立されました。1993年から地滑りのハザードマップの作成をはじめ、また合わせて現地調査を行うことで、危険性のある地滑りのエリアを複数確認することができました。さらに、2004年のインド洋津波を契機に、スリランカ政府は災害管理システムの拡張に向けて対策を進めることになりました。スリランカ政府は2004年12月12日に防災人権省を設立し、国立建築研究所は災害管理分野において先駆者的な役割として機能し、マータラ(Matale)、キャンディー(Kandy)、パディヤペレラ(Padiyapelella)などの地滑り危険地域において、緊急対応や減災の活動を実施してきました。ADRCの外国人研究員プログラムは、私やスリランカにとって災害管理を学ぶ素晴らしい機会となっています。様々な会議やセミナーへの参加、防災関連団体への訪問や講義の受講、被災地への視察などとても有益な活動となっています。そして、研修期間中は様々な催しや日本食を食べる機会があり、日本の伝統文化に触れることができます。それらは素晴らしい機会になると同時に、多くの学生やその他たくさんの人々との交流を深めることができます。

この外国人研究員プログラムで得ることができる経験や知識を、将来自国の防災に生かしたいと思っています。